

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 沖縄に関する第三国の動向（韓国）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43848">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43848</a>

アグニョリ米副大統領  
訪韓





極秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

が今次会談の成果である。今後はソウルにおける軍事専門家間において、既に進行中の韓国軍装備改善の問題についての協議のほか、米軍削減の問題に関する協議も開始されることとなり、更に上記第3点については当地米国大使館と打合せに入ることとなる。

3. 「ア」副大統領は24日のソウル市庁前の声明で述べた両国間の相互防衛条約の履行、F4飛行団の韓国への移駐、しようかい機の提供等の事項については、ボク大統領との会談においてこれをくり返して述べた。

米に転電した。

(了)

子大 閣議

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

202

電信写

大政事外外儲蓄  
務務典房  
次次  
臣官官審審長長  
備備人電厚計  
備備文会管給  
備備

参参折金  
参参旅移

ア 参地中東  
長 北東西  
米 参北北保  
初南南  
長 参西東洋  
長 西東

参参近ア  
次総総国万  
長 参参統  
長 参政技二  
長 参政技一  
長 参余協規  
長 参政経科  
長 参社専  
長 参道内外  
長 参文

総番号(TA) 42232  
70年8月27日19時35分 韓 国 発  
70年 月 27日 20時40分 本 省 着  
外務大臣 殿 上川 大使 臨時代理大使 総領事 代理

アグ=ユ=米副大統領訪韓

第1102号 平 至急

往電第1098号に關し

27日付朝刊各紙は冒頭往電既報のセイカ合スポーツマンの発表を中心とし、「ア」副大統領訪韓最終日の動き等を大々的に報ずると共に、消そく筋が伝えるところとして駐韓米軍削減問題と軍装備改善問題とを平行して協議することに同意したのは、韓国側の譲歩ではない。北からのきょういについても、米国はこれを過小評価し、韓国側と見解が対立した。装備改善についても米韓双方の意見には大きな開きがあり、合意が得られなかつた。また米側は2万名以上の削減をしないと確約しなかつたうんぬんと報じている。なお在韓米軍放送は「ア」がソウルから台北への機中での記者会見において、「在韓米軍は韓国軍の装備改善が終れば残らず撤兵する。装備改善には約5年を要しよう」と述べた旨報じた。(26日よるのニュースで数回同趣旨を放送した。)この記者会見に触れている当地紙においても、この部分は報ぜられていない。(了)



万大  
博殿

大政事外務省  
事務次長  
臣官官審察長受  
儀給入電厚計  
備置等文会密給

長官  
参謀長  
参領旅移

参地中東  
長北東西  
参北北優  
参一  
参西東洋  
長西東

近ア長  
参審近ア  
次総経國万  
長官  
参官統  
参政技二  
國一理  
参条協規  
参政經科  
長官  
参社專  
参道内外  
長官

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

123

電信写

送番号(TA) 42233 主管  
 70年8月27日19時55分 韓 国 発 着 3世  
 70年 月 27日 20時40分 本 省 着 3世  
 外務大臣殿 上川 大使 臨時代理大使 総領事 代理

アグニュー米副大統領の訪韓(論調)

第1103号 平 至急

往電第1102号に関し

27日付朝刊韓国日報及び朝鮮日報はともに本件に関し解説及び社説を掲げているところ。各要旨次のとおり。

1. 韓国日報

(/) 解説「しゆく題として残された減縮協議」

ニクソン・ドクトリンの説得使節として来韓した「ア」副大統領は韓国側のがん強な「先保障」の要求により予期せざりし難関にぶつかり、最終的合意には到達し得ないままに終った。

結局韓国軍現代化問題の会談とは別個に、韓国の安保と米軍減縮に関する協議を同時に開始するという事に着着したのだが、それは従来「先保障、後減縮」を固執してきた韓国がはじめて減縮問題をとりあげることによって同意したことを意味し、友邦の特権に対する1つのおくり物とも見られよう。これは韓国側として要求かん徹の見通しがたち、また

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

米國側の誠意をくみとり得たからだと解される。

(2) 社説「協議の基盤の整理」

問題の基本は米軍の減縮が韓半島の情勢に及ぼすべき影響に対する韓米両国の見解の差違にはじめから存していた。今次会談は、懸案の解決ではなく、協議の基盤と方向の整備、設定に過ぎない。米國側が現代化促進に同感を示し、韓国側が減縮の同時協議に応じたことは接近と見られようが、韓国側として現時点で減縮それ自体に同意したわけでは決してなく、他方米國側が韓国の安保強化の具体案を韓国側が満足できる程度に受入れた証拠もない。韓国民の期待は米國指導者のどう察。大局的判断、政治家的決断にあつたのであり、今次「ア」来韓の結果がニクソン大統領に正確に報告され、米本國の過度のらく鋼主義のせ正に役立ち、今後の韓米協議を通じて前向きの結果が生れて来ることを期待したい。

2. 朝鮮日報

(/) 解説「一步前進した安保点検」

従来韓米両国政府の意見対立の主原因は、韓半島の緊張状態に対する認識度の差異にあつた。国防長官会談や軍事会談は韓国側の「先保障」の主張により進展がなかつたが、今次ボク、「ア」会談によつてこのよう着状態が開き、今後の具体的な協議の途が開かれたことは1つの成果

-2-

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

だといえよう。説得のための特使とも見られた「ア」をここまで引込んだのはボク大統領のごう直にしてねばり強い性格とその努力によるとの見方もあるが、ともかく韓国側としてはその真意を米国側に理解せしめ、従来の見解の差を大はばに解消し、かつは、米国側の誠意をくみとることもできた一方、米国側としては減縮問題の同時協議について韓国側の好意ある同意をとりつけ得た点、双方にとり成果があつたものと評価されている。残る問題はこれからのハイ・レベルの会談の成はいてあり、そのカギは冒頭にふれた両国の認識度の差異を、日も早くせばめることにある。

(2) 社説「韓米間の見解の相違のていへん」

今次「ア」の衆議院が両国間の見解を完全に接近せしめ得ぬままに終つたことは、問題点の深刻さの一たんをうかがわせるに足りよう。今次会談から推して、韓国政府として余程の努力と重大決意をもつて対米交渉に臨まなければ、見解の相違の調整は今後ともむずかしいものと見なければならぬ。

もし韓国の米国に対する信義と信頼感が相手方の打算によるひややかな反応でしか答えられないならば韓国民はこれをはい信と受取り、うちみをいやくこと明らかである。韓国民はその信義と信頼が米国側から同様の感覚とこきゆう

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

でもつて答えられるよう期待しており、いつまでも他人に依存し続けることを願っているものではない。この理解がなければ米国のアジアにおける権力は維持され難くなる。ニクソン行政府がげん想的反戦論者と対決するゆう気を持つよう促してやまない。(了)

4







注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ず激兵できるように取り返したいとの希望をボク大統領に  
そつ直に述べておいた。韓国軍の装備改善は駐留軍削減の  
前提条件ではないうんぬんと語った旨報じている。

(丁)

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 42679 主管  
70年8月28日18時07分 韓(国) 発着  
70年8月28日19時09分 本省

外務大臣殿 上(11) 大使(臨時代理大使) 総領事 代理

アグニュー米副大統領の訪韓

第1109号 極秘 至急

往電第1103号に関し

28日保安司令官金 タイケイ中將は往訪のツカモトに対  
し次のとおり説明した趣。

1. 会議に臨むボク大統領の心境は次のとおりであつたと  
自分は解釈している。即ち、米国の今回の渡軍提案は米国  
としては長期の一定の計画に基き、これをちゆうじつに実  
行しようとしたものである。韓国としては米国の国内事  
情や、ニクソン大統領の立場を全く知らないわけではない  
が、政治とは生きものであるから、計画どおりにものが  
進むものではない。韓国は今、大統領選挙を来年にひか  
え、かつ経済計画もいどろにつき始めたばかりである。  
この重要な時機に韓国大統領の立場や、国民の動向を無視  
して白紙的にその既定計画を実行しようとするとは政治  
道義に反することではないか。米國がどうしても計画通り  
に渡軍を進めたいのであれば、先づ韓国の世論を納得させ  
るに足るだけの保証をする責任があるということ。軍事  
的というよりもむしろ政治的な考慮を主としていたと思う

大務外務省  
事務次長  
官官審長  
備人電厚計  
文会管給  
査長  
領移長  
参地中東  
長北東  
参北北  
参一二  
参西京洋  
長西東  
参近ア  
次総経国  
長参政二  
参政一  
参政二  
参政三  
参政四  
参政五  
参政六  
参政七  
参政八  
参政九  
参政十  
参政十一  
参政十二  
参政十三  
参政十四  
参政十五  
参政十六  
参政十七  
参政十八  
参政十九  
参政二十

Handwritten signature/initials

極秘 60

17

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

2. 自分達は米軍が韓国を放棄しようとしているのではないかという疑問も持ったことも事実である。大統領は「大韓の間にはさまれて、その通路となるような歴史的なひげきをくり返さずよりはむしろえいせい中立的な政策に転換すべきであろう」としようだんをいわれたが、これは単なるわらい話ではなかつた。

3. 「ア」副大統領が時韓する前にも、ボク大統領の意向は十分米側側に依えてあつた。それで米側はレスラム公使やリチャードソン CIA 隊長等を自分のところにも派遣して大統領を説得してくれるよう依頼されたが、自分は「説得だけではどうにもならない」と回答しておいた。

4. 「ア」副大統領の時韓はこれを要約すればボク大統領を説得するためにあつたといひ得る。

5. 韓国が提案した30億ドルの装備改善計画は金額そのものはラフな数であるが、一応積上げの規模があり、韓国民を納得させ得る最少限度の要請であると主張した。

会談はこの30億ドルと米側のふくあんである10億ドルとの間きが基本的な障害となつていたと思う。会談時間がながかつたのは「ア」副大統領が本国から訓令を受けたりする時間がながかつたからであり、会談そのものはしんげんかつ友好的に進められた。

感情的な対立はなかつたと思う。

6. 今後は問題を軍、政両面からの実務者会談に引継ぐこ

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

とになるが、自分の判断としては装備改善のためには30億ドルと10億ドルの中間の線で相互に妥協し、米軍も2万名を削減するかが、現在ある米軍しき単位は減らさない（師団はそのまま残し、師団内の人員を減らし、この減つた兵員をKATUSAで補う）という線で落着くのではないかと見、かつその解決法を期待している。

7. 何れにしろ、米軍が今後5年位の間は韓国から大部分が引あげられるであろうから、軍事援助もそのころには打切られるであろうから、韓国としては今からその対策を十分検討しておくべきであると思う。

なお、ヴァイエトナム派遣韓国軍を引あげの問題は今回は討議されなかつた。韓国としてはこの問題を持出して韓米関係を更に悪化させることを全く望んでいなかつた。（了）

Y/E

万大  
博阪

大政事外外機官

務務典房

臣官官密密長長

備給人電厚計

備文会首給

備

国官長領移長

参調折企

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

参領除移

電信写

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

70年 月 日 19時30分 韓 国 発  
70年 月 日 21時05分 本 省 着

外務大臣殿 上川 大使 臨時代理大使 総領事 代理

アグニ—米副大統領訪韓

第1110号 極秘 至急

往電第1109号に関し

28日在韓米大使館政治担当ピーターズ参事官が本件に問  
し、ノダに語ったところ次のとおりの趣。

1. 「ア」訪韓によるボク大統領との会談によって、始め  
て韓国側が駐韓米軍削減問題につき米側と協議するよう  
になったことは、相互理解が深まったためであり、事態の改  
善である。既に事務レベルでのフアローアップは始められ  
ている。しかしボク大統領は、米軍の行動に対し韓国に拒  
否権があるかのように考え違いをしているのではないかと  
思う。韓国軍を将来南ヴァイエトナムから撤兵するときチ  
ュ—大統領が拒否できるであろうか。

2. 米の防衛公約を改めて文書で、しかも即時かい入をう  
たつてコミットせよとのボク大統領の要請も、議会の承認  
を得られる見通しもないので拒否した。またこれだけ何度  
もコミットメントは守ると公的に述べ、「ア」も到着声明  
で明言しているのに、それを更に文書でかけといわれると

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

米国を信用していないのかといたくなる。

3. 30億ドルに上る特別軍事援助の要求うんぬんの報道  
はあまり根拠がない。問題は韓国の必要とするHARDW  
AREの量であり、それらをいくばくか評価するかは別問  
題である(たとえばF4ファントムは新品約250万ドル  
であるが、既製品で若干部品が不足しているものを補じゆ  
うして完全なものに修復する場合、20万ドルで引渡せる  
かも知れない。M-16小銃のようにしても新品は125ド  
ルだが、余じようの中古品であれば5ドルの運賃だけで届  
くものもある)。更に米は先方 が高度の近代兵器を  
多量に入手すればその維持費が軍事予算を大きくぼう張さ  
せることになり、財政的考慮も重要だとアドバイスしてい  
る。

4. 今回の会談の実質部分における韓国側発言者はボク大  
統領ただ1人であつた。公式訪問を行った米副大統領をボ  
ク大統領がちゆう食めきて6時間もすわらせて会談したこ  
とはおどろくべき異例なことであつた。米側は事前に数ヶ  
月にわたり米国の国内事情とニクソン・ドクトリンの実  
施につき、いろいろな機会にボク大統領の理解を得るよう  
最大の努力をしたが、ボク大統領に無視された。正確な情  
報が十分に部下からとどかなかつたのではないかと心配さ  
れる。そして長時間の会談となつたが、韓国側は実益を得  
なかつた。ボク大統領1人で米側の圧力にてい抗してがん

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

張つたという国内むけのデモンストレーションの効果はあつたということになるか。

5. それにしても自分達が最も心配するのは今回のボク。「ア」会談の不調が、米本国特に議会の対韓感情をれい却させ、韓国のためにも働こうとしている一部議員の士気をくじき、更に一ぱんの問題は国務省の立場を困難にするのではないかということである。ボク大統領の態度が今後もおし通されるならば、韓米関係はれい却し、韓国の得られる実益は却て減少することがゆう噴される。

米に転電した。(了)